



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

謹賀新年

「孫悟空が生まれた国」④

1982年4月30日

午前7時30分にモーニング・コールを頼んでいたが、結局起床したのは9時を過ぎていた。簡単なヨガを実修して旅行社に向かった。ビザは一ヶ月有効のものは取得できなかった。その理由を訊ねたが、「すべて中国旅行社を通じて行われるから、われわれには分からない」とのことであった。

その足で東京銀行に向かい換金。再びホテルに戻りチェック・アウトして九龍駅に向かった。12時17分発の各停電車に乗った。車中で香港人姉弟 (Ms. Elsa Chan, Mr. Johnson Chan) と親しくなった。どのような話をしたか全く覚えていないが、日記をみると、鉄60%、Girl→Father→Boy—♥—Girlが環で描かれ40%と書いてあった。

おそらく恋愛の話で、恋愛結婚60%、お見合い40%などの他愛もない会話をしていたのであろう。恋愛は各国共通の話題である。

香港市内では密集したビル群ばかり見ていたが、車窓を眺めると田園風景が近づいてきた。

「香港にも、こんなのにのんびりした風景があるんだ」

などと悠長なことを思っていたら小雨が降ってきた。

羅湖駅 (ラーウー) (13時40分) に着いた。さあ、いよいよ国境越えだ。

中国本土 (広州) に入るのに三つのルートがあった。

① 香港/広州 特急列車で3時間。特急なら香港ドル40~60 (¥5,000~7,500)。

ところが、わが輩は安いルートを選んだ。各駅停車なら広州まで4時間30分。香港/羅湖まで1時間30分で運賃は香港ドル2.50 (¥312)。そして羅湖/広州まで3時間で運賃は中国円で4元6角 (¥607)。

断然安い。取材費だからケチる必要はないのだが、わが輩は本来貧乏性なのだ。それに急ぐ必要はない。

② 香港/広州 直通バスなら8時間。

③ 香港の大角咀から海上で黄埔 (広州) までホバークラフトなら3時間。

香港側の羅湖で出国手続きを済ませ、中国側の深圳で入国手続きするのだが、国境を越えるときは

何となく緊張する。

インドから陸路ネパールに入った時、出国管理事務所が分からず、そのまま国境を越えてしまったこともあった。だれも咎めることもなく、のんびりした国境風景であった。(緊張感なし)

インドからの帰国途中、鉄道でタイからマレーシアに入国したとき、入管の職員から

「Are you Red Army?」

と聴かれた。

(うう～ん? なんのこと?)

後ろに並んでいた人が、はっきりと「Red Army!」と発音してくれて、はたと思い出した。1969年に大菩提峠事件で仲間をリンチにかけた日本赤軍のことであった。

慌てて「No, No, No!」と三度否定した。

曖昧に「イエス」などと答えていたら連行されていたかもしれない。(あぶない、危ない)

下関から釜山に向かうフェリーの中で運び屋のおばちゃんに頼まれて、税関通過のときアロンを運んであげたこともあった。(少し緊張)

羅湖の出国事務所には、運び屋らしき人、中国人香港人で混みあっていたが、すべてがスムーズにいった。香港人姉弟の誘導があったからである。旅は道連れ、世は情けである。

次に歩いて深圳入国管理事務所の外国人専用カウンター向かい入国スタンプをもらった。それから税関に進んだ。外国人の場合は2階に上がり、カメラ、8ミリ、時計、テープレコーダーの持ち込み申請をした。

持ち込み制限するのは、現在と違って、高級品がない貧しい国であったからである。ところで、これらが万が一盗難にあった場合は、どうなるのか。心配はない、と共産党幹部は言う。

「中国に泥棒はいません」

(本当かな? われらヒッピーは信用しないぞ!)

税関2階から渡り廊下を通り駅2階の待合室に。1階に下りて換金した。(100\$ = 177元) その当時は、外国人は外貨兌換券(ツーリスト・マネー)を使用しなければならなかった。最近の中国の若者は、外貨兌換券があったことを知らない者もいる。一般の元とどう違うのか。レートが違うのである。例えば、深圳/広州までの運賃は外国人が4元60角、中国人は2元60角である。

再び汽車(16:18)に乗ると、全く中国人民服だらけになった。車中で親子づれと同席になった。

「なぜ、特急ではなく普通電車でいくの?」

怪訝な顔をして聞いてきた。わが輩は「好」だからと答えた。子どもが南京豆とスイカの種をくれた。そういえば昼食を摂っていなかった。荷物をおいて食堂車で夕食を食べていたら、車掌が追いかけてきた。

「荷物を置いて席を離れてはいけない」

と注意を受け、この荷物は「この外国人のものだ」と大声で乗客に注意喚起をした。

(と言うことは置き引きがいるということか・・・)

この車掌のモラルは社会主義教育の賜物なのか、それとも儒教的な道徳によるものなのか。いずれにしても、どの国にも悪い奴もいるし、良い人もいる。ところが、いつの間にやら「コロナ・ウイルスは米国が発生源」などと国家ぐるみでフェイクするようになった。社会主義も儒教も地に堕ちたのか。習近平さんよ。